



大宜味村【沖縄県】 歴史文化基本方針

■策定年月：平成22年4月 ■人口：3221人 ■面積：70km²
■担当課：大宜味村教育委員会教育課（平成30年3月現在）



大宜味村歴史文化基本方針は、本村の歴史文化の特性をわかりやすく整理しながら、歴史文化を活かしたむらづくりの基本的な考え方を定めたものである。本村の歴史文化の基本的な認識として、また文化財をめぐる保全・活用の方針として、今後の行政計画に活用されることを目指している。

5 歴史文化を表す つのキーワード

地域での保存継承、歴史的環境の保存継承、先人たちの技術継承
祭祀・伝統芸能の展開、根謝銘城の保存・活用

課題

- ・調査・保存・継承の推進
- ・地域住民の意識向上のための活動
- ・観光や建設との連携、情報共有し、観光情報公開の検討

保存活用方針

- ・字の歴史環境を一体的に保存継承
- ・祭祀や伝統芸能による地域のつながりを村全体へ展開
- ・根謝銘グスクを核として保存活用
- ・自然と生きた先人の技術を継承

保存活用のための取り組み

①根謝銘グスクの文化財調査

平成28年度より学芸員が配置され、平成29年度から文化庁の補助を受け、埋蔵文化財調査を行っている。平成29年度は踏査および試掘調査を実施し、現存、遺構や遺物包含層の確認を行った。今後も継続的に調査を実施し、数年おきに報告書を刊行、保存・活用に向け、検討を行っていく予定である。



②工芸技術の保存・継承

本村には重要無形文化財（工芸技術）である喜如嘉の芭蕉布があり、伝承者育成事業を実施している。今後も継続して実施していく予定である。またその他の工芸技術の活用、周知展開を実施していく予定。



③指定文化財の整備・活用

平成29年度から天然記念物である田港御願の植物群落の植生調査、説明板の設置を実施した。平成30年度は引き続き、事業を実施する予定である。また、その他の指定文化財についても保存管理、普及活用を推進するため、事業展開の検討を実施する。



④普及活用・保存継承の検討

村内にある文化財を後世により永く残していくため、村の文化財指定への取組、既存文化財の村民への周知のため、展示会や文化講演の実施に向け検討していく。



おおぞみ展の事例

◆ 大宜味村の歴史文化の特徴



自然とともに育んできた各集落に残る個性的な拝所や祭祀、生産技術、厳しい地形、環境から生まれた生活基盤や生産遺構、建造物、特徴的な埋蔵文化財などをまとまりごとに調査、記録し、文化財としての魅力を高め、村民とともに理解を深め、村内外に発信していく取り組みを推進していく。

取組イメージ

- ① 沖縄最北の拠点としての根謝銘グスクの調査に取り組み、保存・活用していく。
- ② 各集落に残る個性的な伝統祭祀（ウンガミ等）や拝所を調査し、地域同士のつながりや歴史文化の流れについてまとめ、発信していく。
- ③ 自然の恵りから生まれた生産技術（芭蕉布、旧庁舎、猪垣、炭焼窯）の継承、保存・活用に取り組み、発信していく。

◆ 策定後の成果（見込まれる効果）

- ① **グスク・埋蔵文化財調査の実施**
- 平成28年度より学芸員が配置され、根謝銘グスクの調査をはじめ、埋蔵文化財調査が実施され、今後も継続していくこと、調査に関する現地説明会、村広報誌での周知を検討していくことにより、村民の埋蔵文化財へ関心、意識向上が期待される。



- ② **文化財と村民の一体化**
- 指定文化財への取組を実施や保存・活用を推進することにより、村民の「文化財=近寄りづらい」というイメージを払拭し、生活に密着した大事な財産であるという意識向上が期待される。
例：村指定文化財の説明板製作設置



- ③ **観光拠点としての期待**
- 根謝銘グスクの調査が今後、進んでいく中で保存・活用の計画に取り組み、各部署と連携し、観光拠点としての活用が期待される。
例：トレッキングや堀切体験ツアー、現地学習会などの根謝銘グスクを利用した学習会やツアーなどがあげられる（根謝銘グスク整備・活用基本計画抜粋）また、根謝銘グスクの拝所として利用されている部分もあり、利用マナーや調査、整備の方法が課題にあげられる。